

協議会での
審議結果

新たな歴史館の創造をめざして ～長野県立歴史館の使命と目標～

令和2年度(2020年度)評価表

評価の区分
A 目標を上回る成果をあげた B ほぼ目標は達成した
C 目標には及ばなかった D 目標には遠く及ばなかった

使命	取組	令和2年度(2020年度) 主な事業/目標値	令和2年度(2020年度) 達成値	自己評価	利用者評価(アンケートで寄せられた意見)・備考 赤字は協議会での審議結果	協議会評価							
<p>長野県立歴史館は、長野県に関する歴史遺産の収集・整理・保存・調査研究を通じて、それらを未来に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、将来を展望する場、楽しみ・憩い・交流する場としての役割を果たします。また、地域に貢献する県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点を目指します。</p>	<p>基本目標</p>	<p>令和2年度(2020年度) 主な事業/目標値</p>	<p>令和2年度(2020年度) 達成値</p>	<p>自己評価</p>	<p>利用者評価(アンケートで寄せられた意見)・備考 赤字は協議会での審議結果</p>	<p>協議会評価</p>							
							<p>長野県民の歴史遺産を未来に継承するための取組を進めます</p>	<p>考古資料・歴史資料の価値を有する文書・調査研究を行います</p>	<p>◇ 行政文書、県報、行政資料 ・新規収集資料の選別・収集・整理 行政簿冊 448冊、県報 122件、行政資料 219冊 ・行政文書の公開非公開判定の実施 2,228冊 ・未整理現代史料等の整理 大町高等女学校プール建設関係資料 他2件の現代史料整理 ・保存 長野県史写真フィルム(35mm)の洗浄・複製製作 継続事業 諏訪郡 396本 ◇ 古文書 ・新規史料の収集 17件 約7,387点(概数分含む) ・未整理史料の整理 52件 28,765点 ・公開 45件 21,125点</p>	A		A	
								<p>考古資料の整理・保存処理</p>	<p>・館蔵考古資料の整理と収納(報告書別に棚卸しを行い、閲覧可能なように整理する。 今年度方法と手順についての検討。 ・収納木製品の保存処理(PEG槽へ投入、濃度アップ、取り上げ819点) ・写真資料の保存(フィルムのデジタルデータ化)は35ミリポジフィルム年間6,000枚を実施 ・金属製品に関しては依頼に対応。調整により可能な範囲で対応する。 長野県埋蔵文化財センターから依頼のある149点を完成させる。達成率100%</p>	<p>・館蔵考古資料の整理と収納の方法と手順について検討。 報告書別の棚卸し整理については今年度は未着手。 ・収納木製品の保存処理 819点 (100%対応) ・写真資料の保存(デジタル化) 7,650枚(目標を上回る成果) ・科学分析対応 金属製品の依頼に関しては、調整の上で100%対応 長野県埋蔵文化財センター等からの依頼271点対応 (100%対応)</p>	A		A
								<p>OR3年度企画展の資料調査</p>	<p>・企画展「青少年義勇軍展」「縄文土器展」「丸山晩霞展」(仮称)の基本構想の作成 ・上記企画展の資料調査の実施</p>	<p>・R3年度企画展「義勇軍展」、「縄文土器展」、「丸山晩霞展」の資料調査を実施。具体的な実施設計の作成</p>	A		A
								<p>職員の調査研究の推進</p>	<p>・学芸研究会等における調査研究発表の実施。 ・研究紀要への研究論文の掲載、10論文以上 ・館内における「時代別研究会」の充実、年間6回以上の開催</p>	<p>・学芸研究会9回実施、14人発表。 ・研究紀要第27号発刊、8論文掲載 ・「時代別研究会」すべての時代で6回以上開催。月1回ペースで開催した研究会もあり。</p>	A		A
								<p>史資料の保護(保存・活用)に取り組みとともに、保護思想を啓</p>	<p>○県立の文化財公開機関として、企画展等において指定文化財を展示・公開 ・市町村、県、国の指定文化財の展示機会を設ける ・当館所蔵文化財借用依頼への対応</p>	<p>・弥生展では、コロナ禍のため国宝金印、重要文化財吉野ヶ里遺跡出土品などの借用を中止しパネル展示にしたが、重要文化財中野市柳沢遺跡銅戈・銅鐸・絵画土器・玉類、長野県宝木島平村根塚遺跡鉄剣・玉類、市指定文化財上田市上田原遺跡鉄矛、中村不折展にて伊那市指定文化財絵画などを展示した。 ・当館所蔵長野県宝札遺跡縄文土器富士見町へ貸出。</p>	A	<p>・金印や九州のガラス勾玉が見たかったが残念だった。いつか金印の実物が見たい。 ・信州にも貴重な資料があることがわかった。</p>	A
								<p>○文献史料保存活用講習会の開催</p>	<p>・開催3回 参加者60人 ○考古資料保存処理講習会の開催 ・開催1回 参加者20人 ○防災・災害の対応 ・事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進</p>	<p>・3回開催 参加者数 71人(うち1回は認証アーキスト説明会) 満足度 100% ・考古資料保存処理講習会 新型コロナ対応のため中止 ・長野市立博物館が令和元年台風19号被災資料を当館に寄託、当館管理の(仮称)須坂収蔵庫(旧須坂商業高校)へ収蔵。 ・「文化財レスキューマニュアル策定に関わる懇談会」において県内市町村・諸団体とのネットワーク構築を掲げるなど、マニュアル策定に参画。</p>	A	<p>・動画による修繕の実演は、大変具体的で分かりやすかった。停止、巻き戻しにより、納得できるまで再確認できることは有難い。 ・動画を視聴して、自分でも練習してみたいと思ったので、周辺の町村の学芸員さんと連絡を取り合っており、自分たちでも裏張り剥がしの練習をするような機会を持ちたいと感じた。 ・歴史資料の保存についてより興味を抱く機会ともなり、今後積極的に知識を深めていきたい。 ・質の高い講習会に驚き大いに参考になった。</p>	A
								<p>○史資料の保存等に関する市町村への協力・支援</p>	<p>・依頼事項の90%以上</p>	<p>・災害被災資料の保存についての問い合わせに応じた。(100%対応) ・大雨や台風の後など、県博物館協議会や県史料保存連絡協議会等のネットワークを活用して被害の有無などの情報収集を行った。</p>	A		A
								<p>○県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援をします。</p>	<p>・依頼事項の90%以上</p>	<p>・県内市町村からの公文書等の保存・活用についての問い合わせに応じた。(100%対応)</p>	A		A
								<p>未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします</p>	<p>長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します</p>	<p>○常設展示の工夫</p>	<p>・関係機関との連携 信州大学工学部、繊維学部 ・満足度 80%以上</p>	<p>・新型コロナ感染症の拡がりのため、4月15日～6月1日まで休館したが、休館中來館できないお客様のため「web企画『おうちで歴史館』」と題して、常設展示室内の解説動画を撮影しHPに公開した。 ・信大工学部と連携し、「可視光ID多言語コンテンツシステム」(ビーコンガイド)の常設展示室における実証実験をおこなった。 ・観覧者数 21,764人(R元年 50,253人、前年度比 43.3%) 満足度 91.5%</p>	A
<p>○企画展示の充実</p>	<p>・満足度 80%以上 ・春季展「長野県の考古学」(3月25日～6月14日) ・夏季企画展「地酒王国 信州」(7月11日～8月23日) ・秋季企画展「稲作とクニの誕生 ー信州と北部九州ー」(9月15日～11月29日) ・冬季展「洋画家・書家・コレクター 中村不折 ー伊那谷から世界へー」(1月9日～2月21日) ○ミニ展示の開催 ・企画展示室横の旧映像展示室を、各企画展の一部として使用しない際には、館蔵品を使った企画展関連展示や、新収蔵品の紹介展示などで活用する。</p>	<p>・観覧者数 16,127人(R元度40,295人 前年度比40.0% H30年度26,848人 前々年度比60.1%) 満足度 91.24%(R元 93.66%) ※企画展等別 ・春季展「長野県の考古学」(3月25日～6月14日、年度内4月1日～6月14日 24日) 642人 満足度 100% ・夏季企画展「地酒王国 信州」(7月11日～8月23日) 39日 2,646人(コロナ対応でアンケート聴取停止) ・秋季企画展「稲作とクニの誕生」(9月15日～11月29日) 65日 9,519人 満足度100% ・冬季展「中村不折」(1月9日～2月21日) 37日 2,432人 満足度 96% ・所蔵品展「至宝の名品 ー絵画工芸編ー」(3月13日～6月13日、年度内3月13日～3月31日 16日) 888人 満足度 88% ・「掘るしん2021 ー県埋文センター速報展ー」(3月13日～5月9日、年度内3月13日～3月31日 16日) 774人</p>	A	<p>・単なる資料展示ではなく、生活がわかる展示がよかった。 ・歴史館では珍しい分野の企画展で面白かった。 ・北九州に負けないほどの信州の弥生文化が実感できた。 ・内容が濃い展示、見やすい展示、書に興味を持てた。 ・東京へ行けないので、間近でみられて楽しかった。 ・これからは郷土のすぐれた文化活動、人物の特集を。 ・学芸員の写真入り説明に感激した。解説がわかりやすい。</p>	A								
<p>○総合研究の成果を企画展時に活かす</p>	<p>・三課の協力による春季展の実施</p>	<p>・所蔵品展「至宝の名品 ー絵画工芸編ー」は、三課から担当者を出し、協力により実施できた。</p>	A		A								

	令和2年度(2020年度) 主な事業/目標値	令和2年度(2020年度) 達成値	自己評価	利用者評価(アンケートで寄せられた意見)・備考 朱書は協議会での審議結果	協議会評価
未来を映す歴史知識の泉とし、その成果を普及します	長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します	<ul style="list-style-type: none"> 「弥生文化研究会」6回開催 諏訪地区・上小地区・北信地区・松本地区・伊那谷・東信地区に分けて、市町村教育委員会等の職員対象 66名参加 満足度100% 「高遠藩研究会」 11月19日、資料調査を兼ねて伊那市立高遠町歴史博物館学芸員、伊那市教育委員会学芸員と、令和4年度冬季展「高遠展」に向けて展示資料についての意見交換をおこなった。 「信州黒曜石文化研究会」 新型コロナ対応のため中止。 次年度以降の研究会活動方針決定のため、アンケート調査実施。 「長野県の土偶研究会」 「長野県内出土土偶一覧」・「同関係文献一覧」・「同図版」のデータベース化終了。総資料数4,320件。(当館HPにて公開準備中) 「長野県近世城郭・城下町研究会」 新型コロナ対応のため中止。 3月2日 松本城大天守台石垣内部の試掘調査の見学(事務局)。内容を研究会構成9市教育委員会に報告。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究の成果を秋季企画展「稲作とクニの誕生」に結びつけることができた。 当館だけでなく、県内市町村関係者同士のつながりにも役立つことができた。 研究会メンバーからは、県内外の様々な研究者を招聘したいとの声が多い。 データベース作成については、研究会メンバーと連絡をとり、意見を聞きながらすすめた。 	B
	○未整理現代史料の整理を進める。 ○目録を作成し、データベースとして順次公開する。	<ul style="list-style-type: none"> 未整理資料「原伊市収集文書」など27件について目録を作成し、データベースとして公開した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 協議会審議 相応の成果がありA評価。 	A
県民の生涯学習を支援します	○常設展示室たより「資料が語る」の作成 ○展示替え・新展示に合わせて、見直し・作成。 ○展示解説・ギャラリートークの実施 ○解説希望の学校・団体 100%実施 ○各企画展における展示解説・ギャラリートーク実施	<ul style="list-style-type: none"> 展示替え・新展示に合わせて、「資料が語る」を作成した。 新型コロナ対応において十分なりリスク管理を行った上で、学校・団体解説を行った。 動画による展示解説を撮影し、HPで公開した。 密を避けるため、各企画展における展示解説・ギャラリートークは実施しなかった。代替策として、わかり易い配布目録作成や、展示解説動画のHPアップなどに取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 音声ガイドがあり親切だった。 	B
	○信州学講座の開催 ○開催9回 受講者900人 ・ 満足度 80% ○考古学講座の開催、探訪会の実施 ○講座 開催4回 受講者300人 満足度 80% ○探訪会(山梨県方面の博物館) 実施1回 参加者40人 満足度 80% ○古文書講座の開催 ○開催25回 受講者900人 ・ 満足度 80% ○ティーンズ古文書講座の開催 ○開催4回 受講者20人 ・ 満足度 80%	<ul style="list-style-type: none"> 県立歴史館の信州学講座 9回計画 6回開催 受講者206人 満足度 92% (各回・会場とも人数制限。新型コロナ対応のため中止3回) 考古学講座:テーマ『縄文・弥生時代の食と社会』 3回計画 1回開催 受講者70人 満足度100% 特設1回開催 受講者11名 満足度 100% (各回とも人数制限。新型コロナ対応のため中止2回) 探訪会 新型コロナ対応のため中止 新型コロナ対応のため通年募集する古文書講座は実施せず。 オンラインによる配信の方法について他団体等の事例を検討し、次年度の講座開講方法を研究した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 長野県の歴史、文化、自然など楽しいフィールドがたくさんある。歴史館の大きな指針は大変ありがたい。 コロナ禍の中、講座が開催されてありがたい。 わかり易くためになった。よく勉強されていると感じた。 	A
	○計画に従い各種出版物の発行 ○ブックレット:「学芸員が語る 長野県立歴史館の名品選」(仮)第1巻の発行 ○館蔵資料の一品を学芸員が選定し執筆する。時代別に4巻構成、年1回発行。 ○研究紀要:1冊発行 ○企画展図録:夏季・秋季・冬季企画展における図録の発行 ○館日より、催し物案内:館日より年3回、催し物案内年2回の発行	<ul style="list-style-type: none"> ブックレット:「学芸員が語る 長野県立歴史館の所蔵品選」第1巻一巻一冊を発行した。 研究紀要:第27号を発行 夏季・秋季・冬季企画展にそれぞれにおいて図録を発行した。 館日より年4回、催し物案内年2回を発行した。 データベース「長野県内出土土偶一覧」・「同関係文献一覧」・「同図版」のデータ完成、HPにて公開準備中。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 3月にブックレット内容をベースに所蔵品展を開催。図録としての面ももたせることで購入される方もみられた。(※今後、考古資料編、古文書編など発刊予定) 	A
	○体験学習の教材開発と実施 ○新たな体験メニューの開発	<ul style="list-style-type: none"> 新たなメニューとして、クイズや手製しおりの配布等、参加者とのやり取りをできるだけ避ける方法での体験方法で実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> クイズ形式のイベントでは、親子で楽しく参加している様子がみられた。 	A
	○学校見学時のバックヤード探検の実施 ○希望者の90%以上の受入	<ul style="list-style-type: none"> 学校見学希望校受入率 84.3% 実施学校数162校(見学時間重複等でお断りした学校数30校、集中日は電話問い合わせ段階でお断りする例がある) バックヤード探検(施設見学)希望校受入率 100% バックヤード探検(施設見学)については、好評を得た。 ワークシート(歴史館まなび隊・学習シート) 利用校73校 (利用率45.1%) 令和元年度 利用校126校(利用率51.4%) 	A		A
○博物館実習・職場体験学習の受入 ○希望者の90%以上の受入	<ul style="list-style-type: none"> 希望者受入率 100% 博物館実習8人 新型コロナ下となったが、期間短縮、人数制限、内容変更等工夫を行い実施することができた。 中・高生職場体験 3校10人(延べ13人) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 博物館、学芸員業務の多様さを知ることができた。 新型コロナの影響で断られることも多かったが、受け入れてもらえてありがたかった。 協議会審議 コロナ禍にあって工夫して取り組んでおりA評価。 	A	
○教員研修への協力、実施 ○希望者の100%の受入	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ対応で、相手先と調整しながら可能な範囲で受入 教材研究研修(県総合教育センター) 中止 免許更新講習(信州大学) 3回予定→1回定員20人 19人受講 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校以外での学びが大切になっていく時代、歴史館・博物館をどう活用していくか考える良い機会となった。 協議会審議 コロナ禍にあって工夫して取り組んでおりA評価。 	A	
未来を映す歴史知識の泉、歴史学習の拠点としての役割を果たします	○史料の閲覧 ○整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等で掲載、周知 ○整理・収納した考古資料の公開を進める。依頼については事前調整を行い、閲覧可能な資料には100%対応する。 ○図書資料については、寄贈、購入等の手続き終了次第閲覧可能となるよう登録をすすめる。 ○2月末までの受入図書資料の年度内100%登録	<ul style="list-style-type: none"> 整理が終了した古文書等の公開 整理を終えた古文書群は直ちに公開手続を取り、ホームページ上でその都度データ更新を実施 (公開件数 21,125点、公開度数100%) 古文書公開ブログ 17回更新、新資料の情報を積極的に公開 2月末までの受入図書資料登録 100% 	A	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧室の方たちが、大変親切でした。 	A
	○レファレンスにに対する的確な対応 ○レファレンス対応100%実施 ○職員内のレファレンス内容共有	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス対応100%実施 職員内のレファレンス内容共有 	A	<ul style="list-style-type: none"> ていねいな対応で、回答も早くもらえてよかった。 	A
	○ホームページによる情報提供 ○アクセス数の増加 前年比100%以上 ○開閉館情報や来館者へのお知らせなどを時宜に応じて発信 ○展示解説動画配信や子ども向けなど、webを利用した企画を計画・実施する。	<ul style="list-style-type: none"> アクセス数 94,219件(令和元年度107,879件 前年度比87.3%) 展示解説動画配信を新規におこなうことができた。 	B		B
	○歴史情報のデータベース化の推進 ○考古資料 長野県史収録の遺跡情報の活用を推進する。展示会や講演会等で周知を図る。 ○文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに登録する	<ul style="list-style-type: none"> 考古資料 長野県史収録の遺跡情報の活用を推進するため、展示会や講演会等で周知を図った。 文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに23,353点登録した。 	A		A
	○歴史館情報のマスコミからの情報発信 ○信濃毎日新聞社「しなの歴史再現」への連載 ○企画展、講座等の情報発信(新聞、情報誌等への掲載) ○ケーブルテレビによる主催講座の発信 提供数 9(信州学講座)	<ul style="list-style-type: none"> コラムしなの歴史再現(信毎) 51回 新聞イベント欄、新聞有料広告、雑誌・情報誌、ラジオ、ケーブルテレビ有線放送等で企画展・講座等の情報発信をおこなった。 ケーブルテレビによる主催講座の発信をおこなった。信州学講座で3回、冬季展の講座では1回を発信した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 信毎コラムで、計画的に新展示や企画展に合わせた内容を扱うことが、興味をもった方の来館に役立っている。 新型コロナ対応で講座等の人数制限や移動の自粛がある中で、ケーブルテレビでの発信は有効である。 	A
	○ビーコン(可視光ID多言語コンテンツガイドシステム)の活用 ○利用回数の増加 前年比100%以上 利用者アンケート実施 ○マルチメディアの充実 ○定期的に内容の確認、修正	<ul style="list-style-type: none"> ビーコンの活用について、新型コロナ対応でタブレット使用できず、実証実験のみ継続した。 マルチメディアについても、新型コロナ対応で使用中止とした。現状方式は、コロナ下では使用困難。今後コンテンツ内容を活用した新たな方策を検討予定。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 協議会審議 コロナ禍の非常事態であり評価できないため評価不能。 	評価不能

基本目標	取組	令和2年度(2020年度) 主な事業/目標値	令和2年度(2020年度) 達成値	自己評価	利用者評価(アンケートで寄せられた意見)・備考 朱書は協議会での審議結果	協議会評価	
楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします	楽しむことができる場とします。	○こども歴史館(仮称)の設置準備 ・基本構想検討委員会の開催,基本構想の策定	・外部委員を含めた検討委員会を開催、必要性に関する意見書の提出を受けた。	A		A	
		○親子映画会の開催 ・参加者 年間 600人 ○体験イベントの開催 ・館内及び出前イベント(埋文センターチャレンジ教室など)を実施 (各回100人以上の体験を目標)	・計画したが、新型コロナ対応のためすべて中止。 ・館内 5回予定 → 2回実施 5月5日 「歴史館でこどもの日」 閉館中だったため中止 8月2日 「歴史館で夏休み」(138人) 常設展示室 お宝発見大作戦 75人 地酒展 発酵の教室・発酵のおはなし会 63人 11月3日 開館記念無料公開、体験なし。將軍塚まつり中止 11月29日 「弥生風クリスマスリースを作ろう」 26人 1月19日 「KOAの日」関連イベント コロナのため児童は来館できなかったが代わりにオンライン授業を実施した。 ・館外 8月 県埋文「夏休み考古学教室」 相手方と調整、後援のみで、参加は見合わせ。	B	・新型コロナ下で体験イベントや外出する機会が少なくなっている。少しでも体験する機会がありありがたい。こどもも喜んでいる。	B	
		○来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場提供 ・体験イベント等における来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流促進	・解説ボランティアについては、新型コロナの状況に合わせて、声のかけ方や解説方法を工夫しながら実施した。 ・接触型体験イベント中止に伴い、体験ボランティアの活動はできなかった。 ・ボランティア活動継続や館職員の交流促進を目的に、他分野への参加募集。解説ボランティアより作業ボランティアへ5名参加。	B	・ボランティアの方の解説がわかりやすく、とても楽しかった。 ・ガイドをして頂き、興味深くみる事ができた。 ・案内の方がついてきてくれて有意義だった。 [協議会審議] コロナ禍で最も難しい人的交流の機会を少しでも設定したことは評価すべきでありA評価。	A	
	人が交流でき、憩える場	○屋外展示の充実 ・通路の整備、清掃 ・各時代別植栽の手入れ、看板の整備	・新型コロナ対応の閉館期間を利用して、通路や植栽の整備、清掃、各時代別植栽の手入れを、職員で行った。	A		A	
		県民が参加した館の運営を進めます。	○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数 500人(延べ)・古文書解説文1冊を刊行	・新型コロナ対応のため通年事業をすべて中止した。 総会・講演会のみ実施 24名参加	C	[協議会審議] コロナ禍の非常事態であり評価できないため評価不能。	評価不能
			○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説・体験ボランティアの募集・養成を行い、イベント運営への活用を推進 ・常設展解説等館運営ボランティアの積極的な活用	・歴史館HP、チラシ(当館設置)にて募集 新規登録者8人 ・解説ボランティア 4月～10月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 11月～2月は21日間、マスク、ソーシャルディスタンス等の感染防止対策を行い、展示室で声かけをしながら行った。 ・体験ボランティア コロナのため対面型のイベントはできなかった。 ・作業ボランティア(131回) 木器処理作業(21回)・文献整理作業(107回)・図書整理作業(3回)	B	・解説ボランティアは利用者にも好評だが、ボランティアにとっても満足感や喜びが持てる活動となっている。 ・解説ボランティアの活動がない中で、他のボランティアに参加し活動できたことは、館とのつながりをもてよかったとの声あった。	B
	○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケートの意見の反映 ・ホームページ問合せフォームによる意見募集	・常設展、企画展、講演会等について、来館者のアンケートによる満足度を自己評価の参考にした。 (10月までは感染リスクを考慮し、館内記入式のアンケートは中止とし、HPからの利用を呼び掛けた。)	B		B		
	県内全域での活動を推進し、地域に貢献する活動を進めます。	県内全域の県民の生涯学習、子どもたちの歴史学習を支援します。	○出前講座等の開催 ・「信州学出前講座」として、飯田市・大桑村・箕輪町との連携した講座を開催 3回、200人 ・上記以外の出前講座 要請の90%以上実施	・信州学出前講座 3回開講 聴講者数計65人 (飯田市29人、大桑村22人、箕輪町14人) 新型コロナ対応で各自治体とも人数を厳しく制限し実施。各講座ともほぼ上限人数の参加があった。 ・上記以外の出前講座 要請数27件 実施数27件(聴講者数846人) 100%実施	B	・長野県の歴史、文化、自然など楽しいフィールドがたくさんある。歴史館の大きな指針は大変ありがたい。 ・コロナ禍の中、講座が開催されてありがたい。 ・わかり易くするためになった。よく勉強されていると感じた。 [協議会審議] 人数制限が余儀なくされている中でほぼ上限の人数参加があったためA評価。	A
			○おでかけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曾地域に加え、諏訪地域も対象に追加 10回開催 ○出前授業の実施 ・学校からの出前授業 要請の90%以上実施	・5校7学級、公民館1館1講座 195人に実施 ・おでかけ歴史館事業広報のための学校訪問 上伊那・下伊那・木曾・諏訪地方の小中学校、公民館に広報活動実施。 ・出前授業(お出かけ歴史館以外)は要請1件、対応した。 (100%対応)	B	・児童も対象であったが、体験を通して、原始の生活を想像する姿がみられた。 ・新型コロナ対応で資料に触れる前後で手指消毒等多く行ったが、学校・公民館等の理解もあり、支障はなかった。 [協議会審議] 休館も余儀なくされた中でしっかりと取り組んでおりA評価。	A
		地域活性化に寄与する積極的な情報発信	・令和4年度企画展として、高遠展、諏訪展を構想中。調査・研究を進めている。 ・令和3年度常設展の古代コーナーに、長野市・上田市・安曇野市・松本市・飯田市から資料借用し、「古代の瓦」展示をすることとなった。	B		B	
地域課題を捉えた調査		・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」(山浦直人当館名誉学芸員が中心となって立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会)との連携・調査協力。 当館蔵の長野県測量図等のデジタル撮影、研究会の開催	B		B		
県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点としての役割を充実させます。	県内外諸機関との連携を進めます。	○県外博物館との連携 ・新潟県立歴史博物館との連携協定の締結 ○長野県博物館協議会の運営 ・県博物館協議会HP運用。一般アクセス年間40,000件加盟館のイベントを発信	・新潟県立歴史博物館と連携協定を締結した。 ・地元千曲市と、自治体相手は初となる連携協定を締結した。 ・須坂市(市まるごと博物館構想)との連携準備を始めた。 ・県博物館協議会HPアクセス数 110,376件(令和元年度 56,835件)	A		A	
		○関係機関との連携 ・考古学セミナー(県考古学会共催) 1回 ・近世史セミナー(信濃史学会、信州近世史セミナー共催) 1回 ・歴史館パートナーの日 年2回の開催	・第1回考古学セミナー:新型コロナ対応のため中止 ・近世史セミナー 12月5日開催(受講者数33人) ・「Goolightの日」開催 12月20日(無料公開日) 歴史館ツアー他イベント参加者数 338名 ・「KOAの日」開催 1月19日 南箕輪小学校6年生オンライン授業 118名参加、1月23日(無料公開日) 入館者138人 コロナ禍で児童が来館できずオンライン授業としたが、事前リハーサル等を行い児童からの発言もある授業ができた。 ・千曲市との連携に基づき、千曲市報に無料招待券掲載	A	・ケーブルテレビ会社ということで、講堂での映像放送を実施、好評であった。 ・児童からは、楽しかった、歴史に対する考え方が変わった、教科書がすべて正しいわけではないかもしれないと思ったなどの感想があった。	A	
		○歴史情報の積極的な収集、集約 ・資料調査委員からの県内市町村資料情報の収集 ・県内外歴史雑誌等の収集及び掲載内容の閲覧システムへの登録	・資料調査員から県内市町村史資料情報78件、歴史情報146件を収集し、HPで公開した。 ・県内外歴史関係雑誌804冊収集、掲載内容の閲覧システムへの登録を行った。	A	・HPで情報を得た市町村文化財担当者が利用している例もあり。	A	
	県内歴史情報のデータベース化・デジタルアーカイブの推進と情報の提供	○集約した県内歴史情報のデータベース化、共有化 ・資料調査委員からの市町村資料情報をデータベース化する ・県内出土土偶データベース化終了、発信共有	・資料調査員から収集した県内市町村史資料情報・歴史情報224件をデータベース化、活用できるよう当館HPに掲載、公開した。 ・県内出土土偶(資料数4,320件)のデータベース化が終了。活用に向け、当館HP公開のための作業中。	A		A	
		○データベース化した歴史情報のデジタル・アーカイブ作成 ・館内史資料のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブとしてまとめる	・考古資料 発掘調査関係写真のデジタル化7,650枚 ・文献史料 収集古文書のマイクロフィルム化2,850件	A		A	
		○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供 ・ホームページ内デジタルアーカイブ利用数の増加 前年比100%以上 ・デジタルアーカイブのホームページ新規追加	・ホームページアクセス数 94,219件 (R元度107,879件 前年度比87.3% h30年度76,369件 前々年度比123.4% リニューアル前)) ・デジタルアーカイブの新規追加 県内土偶データベース 4,320件データ作成終了。R3年度公開予定。	B	・「宮坂武男城郭鳥瞰図」などは、デジタルアーカイブ化したことで、利便性も高まり好評であり利用も多い。	B	